

修士論文要旨

学籍番号 22GH302 第 号
人文社会科学 専攻 (コース: 政策科学)

氏名 XU LINTING

論文題目

コロナ禍における国際企業の輸出とFDIについて

2019年(令和元年)12月に、中国の武漢市で初めて報告された新型コロナウイルス感染症は、第二次世界大戦以降に直面した最大の危機と言われている。コロナ禍の蔓延を抑制するため、多くの国がロックダウンや社会的距離を置く、海外からの入国禁止などの人や物の流通を制限する政策を出した。このような感染政策は経済活動を著しく抑制し、世界の経済は急に減少した。

本論は新型コロナウイルス感染症が国際企業の輸出・海外直接投資にどのような影響をもたらしたか、新型コロナウイルスのような大規模な公共衛生危機が発生した後、大規模な公共衛生危機との共生の下で、国際貿易をする企業の貿易投資の動向、選択を分析することを目的とする。

研究方法は、まずコロナ禍後の輸出企業とFDI企業の投資動向を理論モデルで分析した上で、Melitz(2003)の論文と比較する。コロナ禍後に輸出企業が輸出によって外国に一単位の財を供給するには $(1+t)$ 単位の財が必要となり、コロナ禍前より一単位の財を供給するには1単位の財が多めに必要になるため、コロナ禍後の輸出企業の利潤関数の傾きがMelitz(2003)での輸出企業の利潤関数の傾きより緩やかになり、コロナ禍に輸出企業が国際市場に参入する生産性閾値がコロナ禍前より大きくなったことがわかる。FDI企業については、コロナ禍にFDI企業の操業コストなどを上昇し、コロナ禍後にFDI企業が市場に参入する固定費用がコロナ禍前より高くなるため、コロナ禍FDI企業が市場に参入する生産性閾値はコロナ禍前より大きいことがわかる。従って、コロナ禍後に輸出企業及びFDI企業両方とも国際市場に参入できる生産性閾値が高くなり、輸出企業の一部が輸出市場から退出し、FDI企業の一部がFDI市場から退出し輸出企業になる。また、輸出市場から退出し、国内企業になる企業は元々輸出企業の中で最も生産性の低い企業であり、FDI市場から退出し輸出企業になる企業は、コロナ禍前にFDI企業の中での最も生産性の低い企業である。

モデルで理論分析した上で、1997年から2023年までの日本企業レベルのデータを利用して、実証分析を行った。実証分析結果としてはコロナ禍のような大規模な公共衛生危機が発生後、輸出企業及びFDI企業の中での生産性が最も低い生産性を持つ企業がより大きい影響を受けたことがわかった。新型コロナウイルスのような大規模な公共衛生危機が発生した後、輸出企業及びFDI企業の中での生産性が最も低い企業への支援政策が重要であると考えられる。